

ズバリ市政を問う

一般質問

本定例会での一般質問は、3月10日から12日までの3日間行われ、13人の議員が質問しました。その質問と答弁の要旨をお知らせします。
※原稿は、議員本人によるものです。

市立病院の独立行政 法人化の課題は

松竹 秀樹 議員

問 市立病院が平成23年4月をめどに独立行政法人非公務員型に移行する準備がされているが、病院の現状と課題は何か。

市長 病院は医師不足による患者数の減少や医療収益の低下により厳しい経営が続いている。

取り組むべき課題として、質の高い充実した看護サービスを提供するための7対1看護体制。消化器、外科、整形外科の疾患を対象にした特色ある急性期医療の実施。効率的な医療機能を果たすための病診連携、病病連携の拡充。

適正な運営のための新たな給与制度の導入と職員体制の確立、優秀な医師を確保するための医療水準の高度化等が上げられる。

問 独法化についての考え方はどうか。

市立病院事務局長 病院専門の事務職員、法人の事務職員を採用し、育ち上がるまでは現在の市職員が市か

らの派遣という形で、順次採用と引きかえに引き揚げて移行する。経営面では、民間等の病院で医療業務に精通した者とか、経験豊かな方が採用できれば、病院の収益を伸ばし、管理をしていくことに効果がある。

問 市立病院が今後一番に目指すものは何か。

市立病院院長 一番大事なのは、医師、看護師といった人材を確保することと同時に、働きやすい環境をつくりあげ職員の専門性をきちんと担保し、生きがいを持っていただくようなところで頑張って筑後市の医療と市民の健康を守っていき



独法化に向けて準備中の市立病院総務課